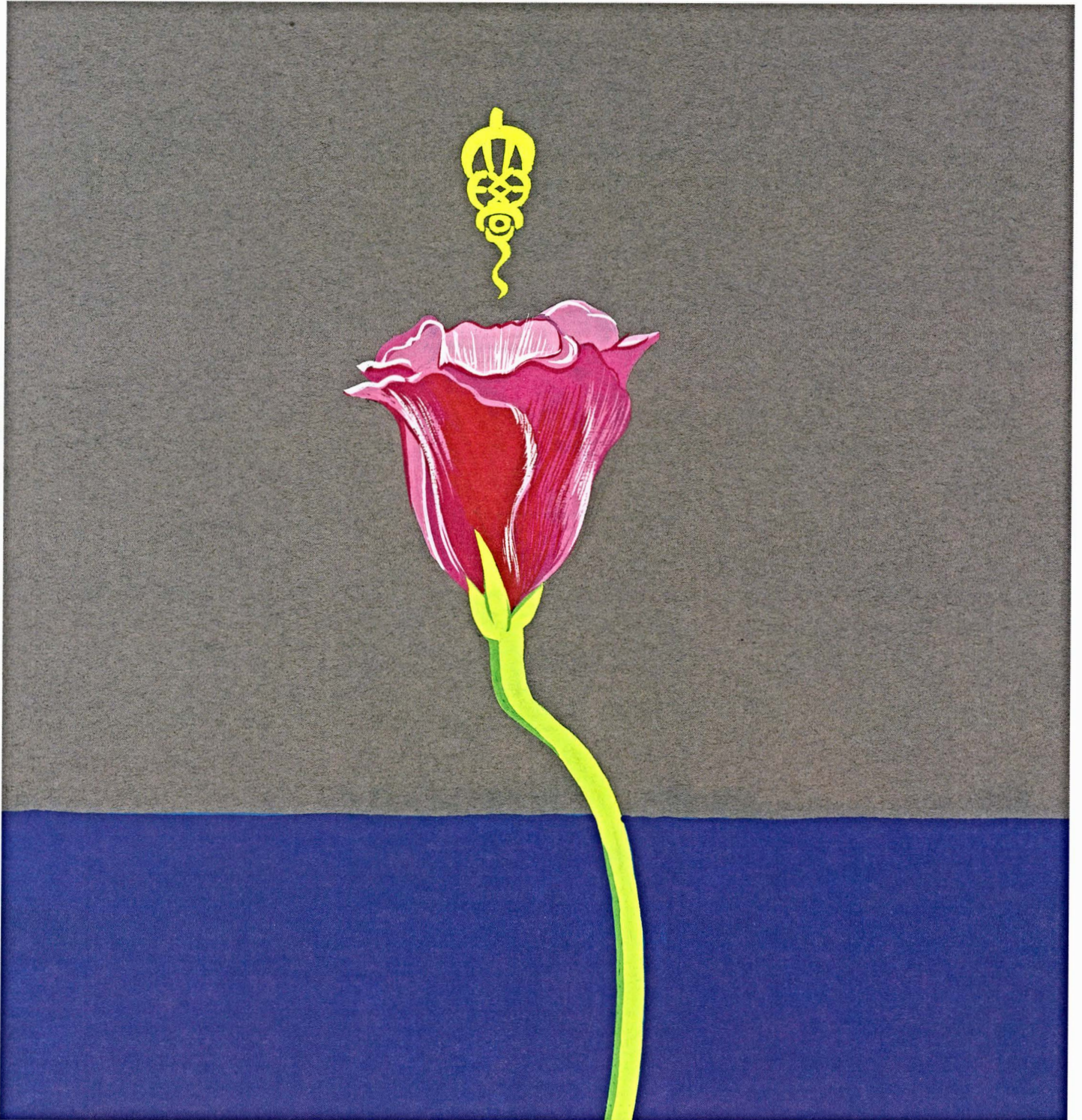


富山大学 No.99 学園ニュース

特集「教育 改革」



表紙の作者の紹介



この表紙を私が担当させてもらうのも
今回が最後になります。
なぜってそれは卒業するからです。
今までどうもありがとうございました。
ただそれだけ。
明日もがんばって生きる。
生きちゃうのです。

教育学部中学校教員養成課程美術科
デザイン専攻（平成11年3月卒業）

六 田 夏 子

学園ニュース

No.99 CONTENTS

特集 「教育改革」

座談会 「教育改革を語る」 1

わたしの研究室

国際文化論コース紹介	人文学部国際文化学科国際文化論コース	3年	森川直紀	… 16
生物学研究室の紹介	教育学部学校教育教員養成課程理科教育専攻		生物学教室一同	… 17
私のゼミ紹介	経済学部経済学科	4年	山崎雅朗	… 18
物性物理第一講座（通称 一研）	理工学研究科物質科学専攻		赤丸悟士	… 19
マルチモーダル第Ⅰ講座ってどんなところ？	工学研究科システム生産工学専攻	3年	高松衛	… 20

留学生(留学)コーナー

私の留学生活	経済学部		鄭聖都	… 21
日本の春	経済学研究科	1年	賈素平	… 22
韓国に留学して	経済学部経済学科	4年	朴沢宏明	… 23

トピックス

一夢大学 in TOYAMA '99-の開催	庶務部庶務課	… 25
第66回全日本学生卓球選手権大会の富山開催決定	卓球部部长	… 27

学生部だより

第51回北陸地区国立大学体育大会の開催	学生部学生課	… 28
証明書自動発行機稼働開始	学生部厚生課	… 29

図書館コーナー

新入生必読！ 図書館利用案内	附属図書館	… 30
----------------	-------	------

キャンパスウォッチング

シャンデリア	工学部	… 33
--------	-----	------

座談会 「教育改革を語る」

日 時：平成11年4月15日（木）16:00～

場 所：学 長 室

出席者：時 澤 貢（学長）
能登谷 久 公（学生部長）
小 谷 仲 男（附属図書館長）
安 部 和 憲（学生課長）
保 正 邦 久（学生課長補佐）
佐 貫 須美子（工学部）（コーディネーター）
山 崎 登志成（工学部）（コーディネーター）
松 島 晴 奈（人文学部2年生）
安 守 薫（教育学部3年生）
三 上 佑 子（経済学部4年生）
谷 吉 竜 一（理学部4年生）
川 畑 常 眞（理工学研究科博士前期課程2年生）

■ 大学の役割

（学生部長） それでは学園ニュースの特集記事として学長先生，図書館長と学生部長，また各学部の各学年から学生諸君にお集まりいただきました。大学は制度や教育が変わります。その教育改

革について座談会形式で話を進めたいと思っております。

それではまず学長からこれまでの富山大学のあり方と，今後の富山大学の展開と言いますか，大学改革，教育改革を含めてお話をさせていただきます。



(学長) 本日、皆さんにお集まりいただいたのは最近の大学教育改革における現状と課題についての座談会です。初めに、教育改革について少し歴史的な経緯からお話しします。

皆さんご存じのように終戦後、各地域に国立大学ができました。当初は東京、京都、大阪、名古屋等に大学がありましたが、地方には大学がなかったのです。当時の大学といえば、先生が教科書を自分で作って、講義ノートを読んだり、黒板に写して書いて説明してくれました。ですから、当時の大学教育というのは、ノートに写し、書きとめるのに一生懸命でした。その時代に、富山大学を始め各地域に新制大学ができたのです。昭和24年ですから、今年で50年になります。

なぜ地域に大学を作ったか。それは、それまでの日本の教育は、ほんの一部の人たちしか大学に行けなかったのです。本県に富山大学ができる前は、旧制富山高等学校、富山師範、富山青年師範、富山薬専、高岡工専などしかなかったのです。

各県に国立大学が設立された理由の1つは、大学で学ぶ学生を増やすということ、全国に大学卒業生を増やしていくということでした。先日もマレーシア工科大学の副学長とお会いしました。マレーシアでの大学進学率は十何%ということでした。しかし、今や日本は40%以上の学生が大学で学んでいます。

2つ目には、文化や経済力について地方と中央との格差をなくすということです。地方の大学の先生は中央へ出かけて学术交流を図る。そしてまた中央から先生を迎えて学問の格差の是正をはかるのです。

3つ目は国際化に向けて世界から評価されるような地域社会をつくるということです。富山大学でも教官が海外へ出て行って、どんどん活躍しています。先生方が外国に出られるということは、富山大学も世界的に評価されるような地域社会づくりに、貢献しているということです。

次に大きな問題は、大学とは何かということですが。大学はまず研究機関です。2点目は教育機関、3点目は社会奉仕つまり社会貢献するということ

です。要するに、大学の研究教育成果が、社会への貢献につながることの3点です。富山大学の年間総予算は、約130億円です。そのうち、授業料等でまかなわれているのは、約25%で、残りは税金です。当然、富山大学は税金で運営されているから授業料も安いという結果になっています。

従って、社会が富山大学に対して、「どんな教育研究をしているのですか」、「私たちの役に立つことをやってください」、「優秀な人材を育ててください」ということを、当然言われ評価されている時代なのです。

ですから、国が豊かなときはよかったです、国の財政が厳しくなりますと、大学に対する社会からの要望も非常に強くなるのです。それが今日の大学の役割と、国立大学である富山大学の位置づけです。

それから、なぜ今改革が必要になったかということ。昔の教育は先生が黒板に書いて、言ったことをただノートに一生懸命写していたわけ。理工系の場合、実は私が工学部長を辞めたとき、図書館で借りた本が5冊足りなかったのです。図書館の本を弁償しなくてはいけない。それで東京の神田周辺を回ったのですが、理工系の本は古本屋に少ない。特に理工系の研究というのは、日進月歩で変わるからです。そのような古い教科書を今使って学生に講義しても、会社へ行ってから「何だ、そのような古いものを」となります。

医学でも検査がどんどん発達しています。若い医者は検査をし、結果を分析して「あなたはここが悪い」と言います。そのためには、日頃から文献を読んで勉強していないといけません。しかし、その文献は古くはいけません。それが自然科学系なのです。ですから、自然科学系では絶えず先生が研究していなければ、学生に満足される講義にならないのです。

自然科学系の大学の講義に最近の研究成果の裏づけが必要だと考えています。高等学校は教科書とその応用問題があって、その問題集をマスターして解き明します。ところが大学は今、現在何が研究されているかということ、先生方が学会や

国際会議へ行って、自分のやっていることと照合して、教科書を手引きとして講義録を作成をしないではいけません。

もう一度言いますが、研究の裏づけがない講義は、自然科学系では時代遅れということです。その点を、自然科学系の学生も知っておく必要があります。よく講義を聴いて、教科書と照らし合わせて、現在、どこまで研究が進み、実業界ではどうなっているかということ意識してもらいたいと思います。これが課題追求型教育だと考えています。

日本は戦後、経済的に非常に豊かになりました。その原因は、科学技術創造立国ということです。

しかし、日本が戦後、技術創造立国になったのは、ほとんど欧米の研究成果の応用です。言い換えれば、日本は向こうで発明された果実をもぎ取るけれども種をまかない創造性に乏しい風土性であったのです。

しかし、世界からは「日本人はものづくりは世界一だ」と言われている。ものづくりというのは、日本人の生まれながらの個性なのです。ものを作らせたら非常に精確な出来栄だと評価されています。

それで、日本はものづくりを輸出をして、経済大国になったわけです。それが現在経済的な貿易摩擦となり外交問題が起きているのです。

さて、今までの日本は果実の応用で、ものを作ったのですが、これからはなかなかそうはいかなくなります。日本ではこれから独自に種をまいて、独自にものをつくるということをやらないと日本は行きづまってしまいます。

それでは日本はこれからどうなるのでしょうか。ご存じのように18歳人口は平成4年は205万人、平成8年は168万人、平成21年には121万人になります。そうすると、4年制の大学に約6割が入学し、短大等を含めると全入学時代になるのです。今大学には帰国子女入学、推薦入学などでいろいろな学生が入学し、入試は多様化してきています。その多様化してきている中で、大学はどのような教育をしたらよいかということです。

それで、まず皆さんに期待されることは、1つは、基礎学力です。2番目は協調性です。3番目は創造力です。

さて、基礎学力とは何かということですが、それは幅広い知識、それと人文科学的な素養、哲学や宗教、倫理といった教養です。幅広い知識、人文学的な教養と専門知識、これら3つが必要だと思っています。

なぜ、幅広い知識が必要なのか。それは専門の知識を勉強する場合に、表現力、思考力、創造力が必要になるのです。表現力ということは、発表するということですから、自分の意見を述べる時、理工系の学生さんも、人文社会系の教養を身につけなければいけない。人文社会系の学生も、やはり工学の話の聴くことが必要です。そして創造力を培って下さい。

創造力の育成については卒業研究や今話題になっているインターンシップなどで、学部で学んだ知識を実行するため、実験・実施してみ、自分で見つけていくことから知恵となります。



(学生部長) 今、学長の方からは、いわゆる新制大学が発足に至った経緯ということについて、それから日本の学制、また今後の展開ということをお話いただきました。

それでは、これから学生諸君の質疑に入りたいと思います。

(学生A) 大学での勉強について、本当に企業の求める人材と、大学が育成している人材とは違っ

ているように感じます。大学が企業のための人材の育成の場ではなくて、人としての一般的な知識や教養を身につけるためのもので、社会人になるための一種猶予期間であるモラトリアムの場としてあるなら、本当に今やっている大学の講義の内容のままでもいいのでしょうか、ということです。

（学長） 一般的な話として申し上げますと、大学の先生が行う講義は、高等学校教育とのつなぎでだぶっていると思います。しかし、内容は次第に専門的に深化していくのです。高等学校の先生は学習する教育方法については豊富だけれども、内容については絞こまれています

大学の場合は、先生の講義は、絶えず研究しながら、自分の専門知識の拡大化を図っています。その知識を皆さんに教授するわけですから、皆さんは、いったいこのようなことが、社会で直ちに間に合うかどうか当惑すると思います。

そこで、講義の中で、先生としては絶えず新しい知識を皆さんに教えて、興味を持たせて、知識から引き出すように、先生は努力しなければならないのです。そして、先生は教育の科目別の理念をきちっと学生に明らかにして、興味と目的意識を引き出すように教えなければいけないのです。

大事なことは、先生方にもお願いしないといけないのですが、カリキュラムのシラバスに目標・目的をきちっとしっかり掲げていただき、皆さんにも、この講義はなぜ聴かなければいけないかという目標を把握し、効果も評価して下さい。

先生の方には、私どもから教務委員長を通じお願いします。

一方、大学を出て外国へ行った場合、その国の文化を知らないと話にならない。美術や宗教など、それぞれ違います。文化を通じて心と心のふれあいを持つためには語学力が肝要です。人と人との意志の伝達の道具なのですから。

（学生A） 今の話もっともだと思うのですが、そのように考えている理想と、現実のギャップが今の大学にあると思うのです。大学の授業では、

幅広い知識を身につけないといけないというのはわかっているのですが、自分が興味の持てない講義に出るよりも、もっといろいろなことを経験する。例えばバイトをしたり、資格や免許を取るために勉強したりする人も結構いると思うのです。自分の友達の1人は、全然おもしろくないからと学校へ来ていなくて、辞める一歩手前まで来ています。

（学生部長） そういう方は、大学へどういう希望を持ってきたのでしょうか。いろいろな勉強を進めていくうえで、最低限のことは、少しは覚えてもらわないと困る、わかってもらわないと困るということはありません。そして、あとは自分の興味を持ったことを深く追求しなさい、というのが本来の大学の姿勢であり、大学のあり方として我々が認識しているところです。

ところが、ノートをとったら終わり、というような姿勢の学生が多数みうけられます。そういう意味で、少し皆さんの考え方と、大学で教える立場にある者との間にギャップがあるのかな、という感じがしています。

（図書館長） 私もヨーロッパの旅先で、高校出身の夫婦に出会いましたが、やはり大学へ行っていないから、視野が狭いというコンプレックスを持っているのです。自分は高校卒だから、視野は高校の仲間たちの視野である。ところが大学へ行った人は、全国区、つまり日本全部から集まる中で勉強しているから、視野は全体にわたると思っている。だから、我々は世界を旅行しながら、視野を広めるのだと。それも、おもしろい考え方だと思います。

その視野のほかに、もう1つ大学で我々が教えている授業というのは、高校卒で就職した人たちには、わからないのです。あなた方は我々が提供する材料で、知識ではなくて、むしろ考える力、創造力といったものを身につけてほしいと思うのです。好き嫌いという問題と、我々の努力と、あなた方もまた求める努力の、ちようどうまくいっ

たところにこれからの大学があると思うのです。

(学長) 視野ということについては、1つの問題に対して、いろいろな角度から思考をもつことなのではないですか。もう1つは、大学を出て、このようになりたいという自分の人生観と自己実現、例えば将来経営者になりたいといった希望もあるのではないですか。

(学生A) 大学を辞めて2~3年働いて、お金を貯めて、会社を興すとか？

私の友人の中に何か大学のやっていることは、全然役に立たないと彼は言うのだけれど。

僕自身は、まだ焦ることはなくて、もう少しゆっくりいろいろなことをやりながら、視野を広げれば考え方も変わるから、大学を出てから考えた方がいいかなとは思いますが。



(課長補佐) 高校しか出ていない友達が哲学書を読んでいるのです。「難しいものを読んでいるのだね。おもしろいのか」と聞きますと、「おもしろくないのだけれど、いつかおもしろくならないかな、と思って読んでいる」という答えでした。

大学へ入ると心理学や、そういった素養ができる。そういう感じで、本を読んでいると思います。

(教官A) 最初のA君の質問と、皆さんの答えとが、ずれているような感じがあります。A君が考えているのは、大学はもっと親しみやすく教えてほしい。例えば家庭一般の料理やコンピュータ

などもっと実用的なこと、それから資格を取るための時間も大学にあるのかということです。

最初に学長の大学の役割は、基礎学力や教養を身につけるということをおっしゃったのですが、A君は必ずしもそう考えてはいない今の大学が、A君が期待するものになってはいない、ということ言っていたのではないかと思うのです。

しかし、A君の質問にもうひとつわからないことがあるのです。A君は、大学は一般知識や教養を身につけ、社会人になるためのモラトリアムの場である、というような言い方もしているのです。企業の求める人材というのは、学長が言われたような協調性、基礎学力を備えた人材だと思うのです。

(学生部長) 僕はそこに矛盾はないと思います。また企業によっては、自分のところで教育するという姿勢もあります。企業も何百社、何千社あるわけですから、各企業向けの人材を育成することではなくて、いわゆる健全で広範な思考ができる社会人の養成ということが大学の目的で、基本的には、立派な社会人にどうやってなっていくかということだという認識をしているのですが。

(学生A) 僕自身としては、大学は専門的な知識というものを身につけるというよりも、考え方というものを身につける場であると思っています。しかし、授業では本当に日常生活に全然出てこないような哲学や、専門的な本当に日常生活に全く関係ないことを、先生方は熱心に教えられる。しかし僕たち学生は、何を言っているか理解できないままなので、単位さえ取ればいいという感じで皆いるのです。

(学長) 一言言わせてください。基礎学力とはもちろん基礎的な素養なのですが、そうではなくて一般的な広い知識ということです。もっと極端に言えば「可山優三(カヤマユウゾウ)」優が3つで可がいっぱいという卒業生が、欲しいと云う会社の社長がいます。その社長と、「創造性」と

いうテーマでシンポジストになっていただきました。とにかく今学生と面接をしても、知らないことがたくさんあります。いったい大学を出たのかと思うこともあるそうです。可山優三でいいから、とにかく広い知識だというわけです。

銀行員にも、広い知識が要ります。お客様に接待する機会が多い、経営の本論は銀行でやるから、とにかく幅広い知識を持つことだ。そして就職面接について聞きましたら、ドアの出入口でろくに挨拶もきちっとできない学生もいるということです。厳しくチェックされています。

それからもう1つ、工学と理学の違いは、理学は要するに理論的な研究が多いのです。今すぐは間に合わない。しかし理学は工学の理論づけに大切な学問です。

ですから、それは今すぐは間に合わないかもしれないけれども、必ず何年後かの実現に向って間に合うと信じています。今は何をやっているかはわからないし、勉強したくないというかもしれませんが、必ずそれは役立つという信念をもって下さい（笑）。

（学生課長） 現在の企業の採用要件を見ると、会社で役に立つ資格をもっている人が有利ではないでしょうか。

例えば外資系列の会社であれば語学の検定資格とか営業職であれば自動車免許等ではないでしょうか。

今の企業等は不景気対策として、かなりスリム化しており即戦力を求めています。

例えば、大学の事務においても、最近電算化されており採用時点においてワープロ・パソコン等が出来れば充分についていけると思います。

一番問題なのは、教養教育期間が2年ありますが、学生はこの期間が教養期間の幅広い知識を付ける期間であることが理解されていないのではないでしょうか。

（学生部長） あまり理解されないところですね。

（学生課長） ですから、料理やコンピュータやパソコン、または自動車学校で運転免許を取得した方が、会社ですぐに役に立ちますし、その方がいいという企業もあります。ただ、ある程度進めば、これは教養がある人の方が、あるいは元気な方が、どんどん進むのでしょうか。

（教官A） 特に理科系の人は実務だけでできるわけではないです。基礎知識とか技術、もちろん実学的ないろいろなテクニックも必要ではあるが、新しいものを創造しようとか開発しようということになると、基礎知識と技術力が必要になると思います。



（学長） しかし、入社すれば管理職になると、人を指導しなくては行けない。今、ものづくりは世界一とか言われていますが、機械ではできないことを手作業でやるというのが技能者職です。それはそれで立派だと思います。大学に入った以上は、技能ではなくて人の指導もしなければ。

大学院の場合は、研究テーマが与えられたら、そのテーマに対してどのように進めるかを企画、実践、結果を評価し、指導する力も身につける。それが大学院です。

（学生A） 僕も、皆さんの言っていることは正しいことだと思うのですが、それをわかってくれる学生は、1割もないと思います。皆、単位を取るのに、一番楽そうなものを選ぶという感じなのです。

(学長) それでどうして興味を持たせるかというと、今言われている課題追求型の教育なのです。課題追求型教育というのは、問題を与えて、その問題をどのように解いていくか。自分で失敗、成功など経験したこと、その経験から課題を与えて、導き明かして解いていく教育です。

(学生部長) 高校ではどのような教育を？ 高校と比較して一番変わったと思うところは、どこですか。

(学生B) 高校では、教科書に書いてあることを、そのまま勉強したらよかったです。テストはそこから出るので、点数を取るために勉強をした。大学は、単位を取るために勉強しているという感じで、自分がしたくて勉強をしているというのではないと思います。

(教官A) Cさんは先生になろうと思っているのでしょうか。すると将来、生徒にいろいろなことを教えなくてはいけない。自分の知識や、広い視野というものがないとはいけません。そのためには教養科目も非常に大事だし、いろいろな知識を身につけないといけない。

(学生C) 私は教員になりたいと思って入ったのに、具体的な例えば板書のしかたとか、発言のしかたといった内容があまりなくて、たまに見当違いの授業もあったりして、すごく不満に思うことはあります。

(図書館長) 教育法というのは、なかなか教えないですね。学生諸君が学びたいことと、我々教師にも結構思い込みがありますから、そのあたりにギャップが出ているのかなと思います。

(学生部長) この辺で、コーヒープレイクにしましょう。気楽にしてしばらく頭を休めて下さい。



■ 大学教育の内容と方法

(学生部長) それでは教養教育について話を進めたいと思います。

(図書館長) 先程、Cさんがおっしゃったのは、専門教育で目的がはっきりしていて、選択の余地がないほど、カリキュラムがしっかりしている。教養教育に対してはどうですか。1年生のころに履修した教養教育について、もの足りなかったとか…。

(学生C) 私は文系なのですが、理系の授業も選択したのです。しかし突然、マクロがどうかミクロがどうかと言われても、よくわかりませんでした(笑)。

(学生部長) 確かに、私たちも最初に文系に教えるのに、ふつうは数式を使って教えるのにどのようにして教えようか、ということがありました。私も工学部の改革に携わったのですが、なるべく専門用語を外した授業をしましょうと言ったのですが、「そんなもの、できるかい」と言われて(笑)。

(学長) 私も「技術の世界」の授業を実施しました。例えば、ものづくりです。どうして作られるのか。そこでなるべく現物を見て、考えます。例えば注射針をもってきて、どうして安く作られ、

使い捨てになったのか、ものづくりアイデア、製造過程と品質管理が授業になります。

(学生D) 私は、教養言論の受講については、系列の制限を設けない方が良いと思います。自分の学部以外の、いろいろなことを勉強しなくてはいけないのは、知識を広げるためというのはわかるのですが、結局受けてみて、ためになるかどうかかわからないものもあるのです。だったら、興味がある同じ人文系から取りたいと思うのです。

(学生部長) それについては、今私も学長も言いました。先ほどの話の中で、やはり人間の幅を広げるために、こういうこともやるのだという話は、わかりますか。

(学生D) はい。

(学生A) とにかく勉強したいわけではなくて、学歴が欲しいだけで来ているという人が、たくさんいると思うのです。

(学生部長) 勉強はしたくないけれども、学歴だけが欲しいと。しかし、公務員試験あたりでも、一般常識というのは出ますね。そのときは文系も理系も含めて、新聞に出てくるような一般問題は理解していないと、公務員試験はわかりません。我々としては、ある程度のレベルのものは用意しなくてはならないというのが、基本的な姿勢としてあります。

(学生A) 今、教員採用試験を目指して勉強をしているのです。教職科目がいくつかありましたが、はっきり言って授業の内容には出てこないようなことばかりなのです。教えてもらったことは、ほとんど役に立たなかったのです。授業は出ていましたが、全部自分で1から勉強しなければいけなくなりました。

(学生部長) それで今年、試験を受けるわけで

すか。過去の問題をやったりして？

(学生A) はい。授業で、参考図書などで買わされたりしたものもあるのです。それも全部読んだのですが、ほとんど関係ないことだったり、専門的な言葉しか書いていないのです。

(学生A) それとは別に、また教職科目がある。単位を取るために出ているものだから、取らないといけない。だけど、勉強を本当に一生懸命しても、何か的外れのことしかやっていないのです。

(教官A) それは、例えばCさんも同じような授業を受けているのですか。やはり役に立たないですか(笑)。

(学生C) 教員採用試験には役に立ちません。

(教官A) 採用試験には役に立たないのですね。しかし将来、一生でそれを考えると、何らかの役には立つと思うのです。僕は例えば学生時代に、授業中はあまりおもしろくなくて、何の役に立つのだろう、と思ったこともあるのです。しかし今になってみると、いろんな意味で、有意義であったと思います。



(学生E) 教養教育を3年の前期で、急にすっぱりおしまいになってしまう単位という扱いになるのですが、ほとんどの学生はもう履修しないと思うのです。しかし、せっかくそういう教養教育

があるのだったら、卒業までやってもいいのではないかと思うのです。

(学生部長) そうですね。先程、学長からも大学の理念が出てきましたが、まさに教養教育と専門教育は、車の両輪というようなとらえ方をするならば、実際は4年まであってしかるべきなのです。けれども、それが専門の授業が増えてきて、文系の方はわかりませんが、工学部などでは、びっしりカリキュラムが詰まってしまっていて、とる余裕がないのです。

(学生E) カリキュラムの違いだと思います。工学部のことはよく知らないですが、経済は4年生になると、学校に来ない人が多くなるのです。なぜなのでしょう(笑)。

(図書館長) 人文は忙しい。卒業研究(卒論)が大変だから。

(学生部長) 昔から経済は3年でほとんど単位を取ってしまう、ということは聞いています。

(学生E) ほかの学部はそうでもないのですね。

(学生A) 理学部は、4年でも授業がありますね。

(教官A) 理科系の場合は、4年になると、そこでは課題追求の卒業研究をすることになるので。ですから、4年生でも忙しいわけです。経済の方も当然、課題追求型のセミナー等が入っていましたが、いかがですか。

(学生E) そちらの演習はあるのですが、もうそれだけで、経済の場合は、あとは授業に出ないという人がほとんどなのです。

(学生部長) 経済は3年で卒業というのが、十分可能だということですね。

(図書館長) 4年目に授業を入れておくと、「就職活動だ」と言って全然出て来ないし、先生の方も困る。それで、すべて3年生までに大部分は取っておくというような指導を人文学部では今している。

それからDさんの肩を持ちたいのですが、教養教育というのは、やはり単位のために取るというのは問題だと思います。もう少し制限を緩めて、好きなものを取りながらできるようにする。今の専門以外の科目が教養になる、という定義もおかしいので、もっと専門科目を楽しみながら履修できるように、できれば変えていってほしいと思います。

(学生部長) 教養科目のコマ数の設定にももう少し融通があればそれができますが、今は窮屈になっている。

(学長) どうですか。皆さん、小刻みに試験して、月1回ぐらいの試験が良いですか。

(学生A) 理学部は結構難しいので、あまり試験をやられてもきついです。勉強などは一生懸命やっていますが、全然理解できないということがかなりあります。そういうときは本当にやっても全然わからないのです。

(学生部長) 家に帰って、どのくらい予習、復習しているのですか。

(学生A) ずっとやっています。やってもわからない。

(教官A) 僕らは昔、授業を受けたらその倍の予習・復習と言って、その時間は実はないのですが、それでも、2時間の授業を受ければ、2時間ぐらいの予習・復習はしたものです。彼の場合は、ちゃんとやっているけれども、やはりわからない。しかし最近多いのは遊んでいて勉強をしないから、理解できないという者がいるということです。今

のように「家に帰って予習・復習をしてもわからない」と言われると、あとはどうすればいいのか、非常に困るのですが。

教え方をどうすればいいのかということと、それから勉強のしかたをどうしたらいいかということとを、一緒に考えていかなければいけない。



(学長) アメリカの大学などは試験が終わったら必ず、次の日から何時から何時までと日時を決めて、学生と試験結果のヒヤリングをします。学生がカバンを横手に廊下に並んで待っています。

(図書館長) 理系の学問は基礎から始めて、どんどん高度になっていくのですが、人文の学問は必ずしも段階的学習ではない。高校や中学と違って大学の我々が考えるのはクイズではなくて、クエスションということです。クエスションというのは、先生自身も答えがわからない。それが、人文学部の学問の非常に微妙なところ。人生の問題など、永久に解けないかもしれない。そういうところで、それをいかにうまく教えるかではなくて、一緒に共同して授業を組み立てていくかということで、教官がそういった悩みを抱えているということも、少し考えてほしい。試験に出すのだけれども、先生は必ずしも答えが用意できていない場合もある。しかし、本気で考えてもらわなければならない、大切な問題です。かえって学生さんの答案で、ヒントを得る場合もあります。

(教官A) 今の話と関係して、実はEさんが成

績評価のことで、自分の答案に対する手応えと評価が一致していないことがある、とあります。理科系だと、答えは一応あるのです。それはやはり経済にしても文化系だから、そういうことになるのでしょうか。手応えと評価とが一致しないということですが。

(図書館長) 考え方が違うと、もう点がもらえない事もありますね。理論経済学あたりは、その可能性もありますね。それに、図書館で本を調べて、そのまま写したような内容だと、評価されないかもしれませんね。

(学生部長) 先生も真面目に採点はしていらっしゃると思います。問題の取り方とか、そういうことを……。答案を返してもらおうとか、あるいは先生にもう一度質問して話し合うということ。

(教官A) ところが生徒にとっては、先生のところに質問に行くというのは、とても勇気の要ることなのですね。やはり本当はレポートや試験結果を返してもらえば、そういう機会も持てるのだらうと思いますが。ところが、中学や高校までは、例えば数学の試験があっても、そのあとにまた授業があるのです。それが大学の場合は、15週間授業があつて、試験をやったら、次にはもう会う機会がないのです。答案を先生が返したいと思っても、返す機会もないわけです。その辺、何かうまい方法がないのでしょうか。

(学生部長) 同じ学年でも、次に後期があるときは、後期の第1回目の授業に、私は前の試験の奇答、珍答、変な答えを、あるだけ書きあげたりします。

(学長) 私は試験後よく質問の時間を設定しました。その時、学生はよく理解してくれました。例えば、半径で計算しなくてはいけないものを、直径で計算したり、面積で計算しなければいけないものを円周で計算したりした、ちょっとした間

違いを指摘したのです。学生は、自分はよくできたと思っていたのですから。

(学生部長) では進行させていただきますと卒業研究について少し話をして下さい。

(学生B) 卒業研究は自分のやりたいことと、研究室のテーマが違うことがあります。これは研究室によって違うとは思いますが、テーマを与えられてやるのでも、それなりに、要はどのように考えて研究していくかというのが大事だと。ただ、研究室にもよるのですが、卒業研究のやり方、指導のしかたというのが、研究だけをやりに来ていればいい、というのがあるのではないかと思います。

研究室というのは、一番人材の育成に適している場所だと思うのですが、研究だけやっていると、研究室の体制の問題ですね。その辺はやはり問題になってくると思います。

(学生部長) 君の言いたいのは、そういう研究を通して、教官や上級生や下級生などとのやりとりが欲しいということですか。

(学生B) 僕が行っている研究では、そういうものもあります。ほかでは、ないところもあります。

(学生部長) ではAさんや、Eさんは4年生になって、卒論のゼミを取られたと思うのだけれども、どのような考え方でそれを選ばれたのですか。

(学生A) 僕は消去法で決めたのですが、勉強しているのにさっぱりわからないのです。せめてわかりそうなところを選んだら、低温関係になってしまったのです。超伝導とか磁性とか、そういうところをやっています。

(学生部長) 消去法で、選んだらそこへ行ったと云うことですか。

(学生A) すごく興味を持って、おもしろそうなのですが、理解できないのです。

(学長) 超伝導を理解できないというのではなくて、これからやればいい。

(学生A) 何かおもしろいとは思いますが。

(学長) リニアモーターには超伝導材料が使われています。すばらしい研究ですよ。

(学生E) 経済学部の場合は、シラバスが事前に生徒1人ずつに渡されるのです。その中で、個人個人が興味のある課目を選ぶ。面接期間が経済学部の場合はあって、教授と直接話ができます。そういう期間があるので、あまり不満を聞いたことがないし、私も特にないです。



(学生部長) やはり研究室というのは、そういう意味では、限られた期限の中で、いくつかテーマを工夫して設定してやっていく。大学院の講義も、大学院も十何人しかいないときには本当にやりとりもできたのですが、40人相手ではやりとりを双方向でしていたら、なかなか授業にならない。

(学生B) ただ大学院になってまで、講義だけの授業、聞くだけの授業というのは、本当におもしろくない。大学院は最高教育機関なので、それなりのものを、学生にもっと求めてほしいと思います。

(学生部長) 大学院生に求められるのは、4年生をいかに指導するかという指導力の問題です。あなたも含めて、そういう指導力が要る。

■ 教育方法の新しい試み

(学生部長) 次に新しい教育法の試みということで、今いろいろ言われています。例えば学力別のクラス編成ということも言われます。この辺について、話をして下さい。

(学生B) 僕は一応、学力別クラス編成ということ、例えば、体育の先生がバスケットの授業で、最後に「自分で何点をつけるか」という自己申告制だったのです。そういうのもおもしろいなと思いました。塾ではないのですから、学力別といっても学力をまずどこで測るのか。

(学長) 東京外国語大学では、入学してから語学教育はA、B、Cに能力クラス分けをします。センター試験の結果などからクラス分けで自己申告です。そのようにして、途中でCからBにもいけるが、単位はクラスの中で評価する

最後に私が言いたかったのは英会話です。教養教育の1年生から是非とも英会話を。留学生センターもできたのですから、留学生と食堂で話をするとか、いくらでもチャンスがあります。会話は1つの技術だから、英会話はぜひとも、これからやってもらわねば、国際人になれない。

また、ティーチングアシスタントやチュータ制度を利用するとか、マレーシアとかタイからの留学生や中国でも英語をやっているそうですから、留学生に指導を受ける方法もあります。

(学生部長) 問題は、それを単位として認めるかどうかになると、またうるさいところがあって、なかなか語学の先生方がそれではいけないということで、クラス編成というのは、問題はあっても、自己申告のようなかたちでやっていくというのは、いいのかなと。東京大学が理Ⅰ・Ⅱの学

生に、物理と数学の試験を、入学式の次の日にやって、そこである程度のレベルに達しない者を集めて補習授業をしている。

(学長) 長岡技術科学大学でも学力試験をやっているそうです。

(教官A) ところで、クラス別にしたとして、Cの教室をうけたということになると、例えば就職のときにマイナスになる、ということはないのですか。

(学生部長) それは到達度で見るので、努力賞のようなかたちで評価する。AのAなら一番前でもいいのだけれども、CのAでも、Aとして出すのです。頑張ったということです。

(学生部長) それから飛び級というのが今、認められるようになってきたのです。3年から大学院へ行けるといって、飛び級です。ところが今度、3年で卒業という制度が検討されはじめた。

(学生E) 各学部の方では、どう考えておられるのでしょうか。

(学長) 今度5月の13、14日と、国立工学系の学長だけの会議があるのです。そのときの課題としています。

(学生部長) これはまだ、我々も先が見えないところがあります。しかし制度としては、例えば9割以上の単位を取って、換算点で2.8以上とか、基準は工学部で作ってあるのですが、どうも運用面でまだ問題があるということで、実施しておりません。工学部は時間割が組めるのですが、実験系はやりたくないという…。

(学生部長) それからインターンシップという言葉をご存じでしょうか。ときどき新聞などにも載っています。教育学部では教育実習があります

ね。我々のときは、4年生の夏休みに会社へ2～3週間行った。それは就職を目的に行った場合と、そうではない場合とがあった。それが、我々は単位にならなかったけれども、私学の人は単位になったのです。

これがたぶん70年安保のときの大学紛争あたりで産学協同はけしからんという話で、それではなくなったのですが、やはり学生時代から職業人としての認識を持つために、文系理系を問わずそういうことをやろうということでインターンシップ制度ができた。あなた方に聞いても認識していないことだと思いましたが、新しい教育方法ということで、議題に挙げておきました。

教育学部は強制的にやらせますが、人文や理学部から、先生になられる人がいますね。

(学生D) 教育実習はあります。

(図書館長) はい。母校で大体やります。出身校にお願いして。

(学生部長) あとは教育学部附属の方でもできますね。経済もインターンシップは、文系は、商社や銀行、官庁といったところが対象になるかと思えます。

(学生E) 何か掲示で見たことがあります。3月くらいに西武百貨店かどこかで、そういった体験実習の募集というのが…。

(学長) 九州大学は、経済でもやはりやっています。

■ クラブ活動や日常生活への大学の対応

(学生部長) これは学生諸君はまだよく見えませんが、認識してもらえばいいと思います。

次に助言教官制についてですが、教養部がなくなりましてから、学生の担任というものが作れませんので、助言教官制を作りました。工学部だと、

1研究室だけで10人あまりの学生を、助言教官のかたちでやることになっています。

(学生D) 人文の場合、2年生からコースが決まるので、ゼミ教官がその助言教官になれば良い。

(図書館長) 人文学部で助言教官を決めているのは1年だけです。あとは、講座やゼミの先生方をお願いしている。私も今1年生4人くらいの名前をもらっています。まもなく面接をする予定です。

(学生E) 経済学部の場合は、1人の先生に4～5人だったと思うのですが、そういう制度があって、1年の4月にだけ1度面接というのがあって、それ以降全く何もない。私の助言教官は、もう替わって行かれてしまったのです。今は2年を過ぎると、演習の教官になりますから。それに面接といっても、行かない人がほとんどです。

顔も名前も知らないという学生が結構いるみたいです。

(学生部長) 我々の研究室に教官が2～3人いて、10人くらいを持つだけでも、なかなか来てくれるのは少ない。強制的に集めなくては行かないかと思うのですが。

(図書館長) 医者みたいなもので、使わなかったらいいということか(笑)。

(学生部長) それから何か部活動はやられましたか。

(学生A) サークル活動をやっているのですが、大学の中の施設というのが、どれくらい使っているのか全然わからないのです。

(学生部長) それは学生部へ行って聞けばいい。サークルの届出をしてもらえれば。団体結成届けというのは、サークルの責任者の名前を書いて申

し込めば、それに対して物品代の補助もしているのです。

(学生課長) 学生生活案内を見てもらえれば、利用の方法が書いてあります。体育施設が少ない学生の皆さんには共用してもらっています。サークルによっては空いている時間をうまく使っています。

(学生A) 大学に3年間いたけれど、結構知らないところがある。

(学生部長) 学生部に行けばいい。もし後輩で聞かれたら、団体届けを出すように言って下さい。あれは学生課ですね。

(課長補佐) 窓口で言って団体届けを出してもらえれば。何かあったときにいいのです。当然、ある程度保険料は払ってもらうかたちにはなりますが。入っていれば手当もできますから。

(学生課長) 例えばアルバイトも学生部の前に掲示してありますが、以外に分からない学生さんが多いです。

4年間一度も利用しない学生さんもいると思います。

アルバイトは、5月から生協の方に提示されることになりました。今度は学生さんが毎日利用される生協にあるので利用者には便利になるのではないのでしょうか。

(図書館長) 一度も図書館に足を入れたことのない人もいるのでは(笑)。

(学生部長) 図書館も利用して。今度は証明書自動発行機も利用できますから(笑)。いろいろな書物を取りに行くついでに。

(学生部長) オリエンテーションに時間を取らなくてはいけないかもしれない。これは教官側の

反省ですね。

(図書館長) 図書館のカウンターにいる人は、「学割を取るにはどうしたらいいか」などと。あれができたものだから、いろいろな質問が来るらしくて、ちょっと頭をかいている(笑)。できるだけ対応しています。

(学長) 忙しいでしょうが、また対応するようにお願いします。



意識の改革

(学生部長) その他、大学のアピール、あるいは意識改革ということで、お願いします。

(学生B) 富大は第2志望で、センター試験の結果が悪かったから富大へというのが多い。富大に、そういう歴史があって、企業の人も、OBの人もそういう考えだから、僕らもそういう扱いをされてしまうのです。

ですから、地方大学なら地方大学なりの、何かオリジナリティをもっと出していかないと、絶対に負けるのです。例えば、学園祭の時に一般の人にも来てもらえるように、電車や交通機関のあらゆるところに広告を出すのです。名古屋大学の学園祭では、ここの研究室ではどういう研究をしていますということを紹介しています。受験を考えている人たちにとって、それは興味深いことだから、実際に来てどのような大学かを知ることがで

きる。そういうものをやったらどうかと思います。一応、「夢大学」などをやっているのですが、それだけでは足りない。

（学長） そうですね。最近、大学でもいろいろ情報公開をしています。

それぞれ大学には、特徴があります。今では富山大学も検討しています。大学院生が学会で発表したときなど、会社から「あの学生が欲しい」と言われる時代です。やはり企業から欲しいと言われるくらいの学生になってもらいたい。

（学生部長） 富山大学に限っていえば、国家公務員の上級は今年は2人、去年も3人うかっています。本来、偏差値で切ったら、国家公務員の上級なんて入らないのですが、頑張っけて入っているものもいる。

富大出身の社長さんもたくさんいます。そういう意味では、君たちが思っているほど、評価は悪くないのです。それだけ先輩が頑張っけてくれているから、その問題はないと思います。

A君は授業がわからないと言うけれども、わかるところに来たときは、それなりの感激もあると思います。それを難しいからといって放っけておいたら、もっとわからなくなる。

（学長） 21世紀の大学というのは、競争的な環境の中で個性に輝いているものではない。今は各大学が競争して、何とかして個性に輝く大学にしたい。だから各大学では改革を進めているのです。

（学生B） 大学というのが一種の違う世界という感じが、僕はしています。でも、学校というのはどこでも、小学校でも中学校でも高校でも何か違う空間なのです。絶対にそこには甘えがあるのです。

（学長） 今後は2人に1人が大学へ入学するようになったら、甘えは許されないと認識しています。そこは学生と、少しギャップがあるかもしれない。

それから、富山大学の一番大きな問題は、教育です。きめ細かな教育です。先生方の意識の改革。細かく、温かく、個性を引き出し伸ばす教育をしなければいけないと思います。

（学生部長） それでは、予定した時間よりもオーバーしました。学生諸君にも、まだ話し足りないところがあったかと思いますがこれで終りたいと思います。長い間ありがとうございました。

わたしの研究室

国際文化論コース紹介

人文学部国際文化学科国際文化論コースは去年できたばかりで、今売り出し中のNewコースです。うちのコースの特徴は、何ととっても先生と学生のきずながとても固いというところでしょう。総勢9人の先生方は、とても個性豊かで、酒好き、遊び好き、学生好きで、もちろん研究にも熱心な先生ばかりです。1学年20人を越える学生達も、そんな先生方の魅力にもう、とりこで、先生の研究室に遊びに行かせてもらったり、メシに連れて行ってもらったりと、とてもアットホームな雰囲気です。

こんな国際文化論コースの演習室、実験室には、常に誰かが居て、特に夜になると、どこからともなく人が集まって来ます。遊び相手を探しにくる人、酒を飲みにくる人、レポートをしにくる人、パソコンをさわりに来る人、など目的は様々であるが、国際文化論の部屋は、楽しいトークと笑い声が絶えることは無いかのようです。

さて、国際文化論コースという名前を聞いてもあまりにも漠然としていて、一体どんなことをやっているかピンとこないと思いますので、コースの生い立ちと現在を少し話したいと思います。国際文化論コースは、以前あった日中文化関係論ゼミナールと日露文化関係論ゼミナールが合併したのが始まりで、今では中国・ロシアだけでなく、朝鮮、アメリカ、日本を専門とする先生方がおられるので、1つの国のことだけでなく、幅広い選択が可能です。コースの名前通り、グローバルで自由な感じで、色々な専門の授業を受けられるわけです。今の新2、3年生やこれから国際文化論コースを選ぶ人の中には、このコースのネーミングに魅かれて、コース選択する人が必ずいると思いますが、その判断は、決して間違っていないよ。

国際文化論コースでは、行事も盛んで、新歓コンパ（2月と4月）、春のソフトボール大会（5月）、秋のソフトボール大会（11月）、忘年会（12月）、卒論祝い（1月）、追コン（2月）、卒コン（3月）と、あと小さな宴会は毎週のように行われます。

以上、ほんの一部しか触れられませんが、国際文化論コースの紹介とさせていただきます。



人文学部国際文化学科国際文化論コース3年

森川直紀

わたしの研究室

生物学研究室の紹介

教育学部学校教育教員養成課程理科教育専攻

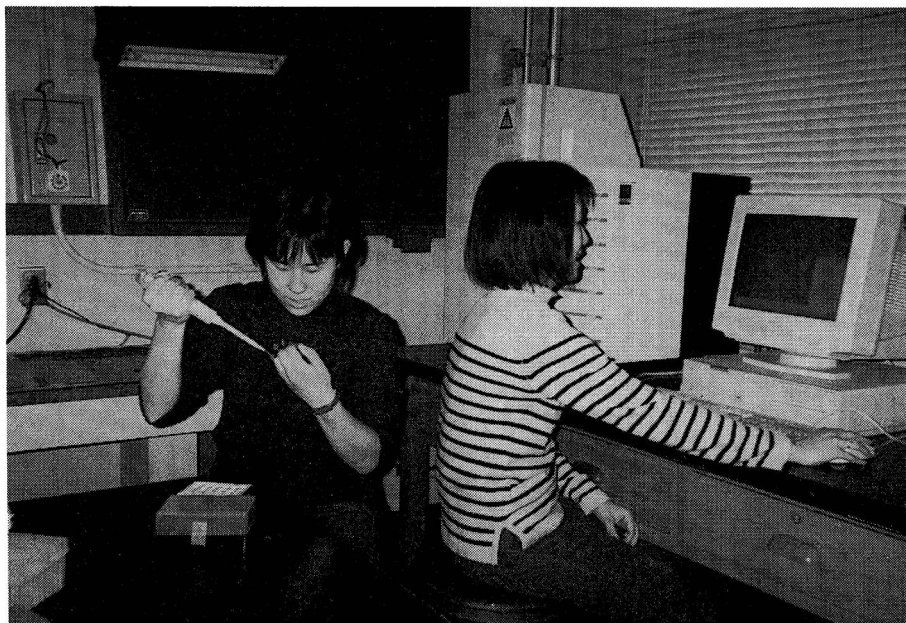
生物学教室一同

近年は中学生、高校生の理科離れが大きく取り上げられています。これにはさまざまな要因が考えられるでしょう。しかし今日のように科学が発展し、もはや科学の恩恵なしには普段の日常生活でさえも十分におくことができなくなってしまった現代の私たちにとって、これはおおいに懸念される問題であると思います。われわれ理科教育専攻の学生は、まず自分が自然に直接ふれあう研究活動を行い、自分なりになんらかの答えを見つけていくことをとおして、どうすればこの問題に対処していけるのかを考えたいと日々がんばっています。それは自分自身が理科のおもしろさを十二分に実感することから、すべてが始まるからです。

私たちの生物学研究室は、田中先生、渡邊先生の指導のもとに、大学院学生が1人、4年生が6人、3年生が4人います。田中先生はミジンコ類（枝角目）や淡水魚類の分類、生態などを研究しておられます。田中先生に卒業研究をみていただくことになると、あちこちのため池にでかけてプランクトンネットを引いてミジンコを採集したり、投網をうって魚をとったりします。特に魚をとるときは、狩猟本能を刺激するような快感があり、ヒトが昔からやってきた営為とはこのようなものか、などと感心してしまいます。渡邊先生の卒業研究は、微細な緑藻の系統分類学に関するものがおもで、電子顕微鏡をつかって細胞構造を観察したり、DNAの塩基配列をきめて分子生物学的な系統解析の研究を行っています。

以上のように言うとは向きはなにか難しそうに聞こえるかもしれませんが、ゼミ室の中ではというと、みんながさわいでいたり先生がギャグをとばしたりするなど、とても明るい雰囲気な部屋だと感じます。去年の4年生がいたときには、とってきた魚を標本にして殺すのにしのびず水槽にかけていました。水槽を掃除しなくてはならなくなったところ、水道をとめるのを忘れて休日に床をびしょぬれにしてしまったり、魚といっしょにとったカニが夜の間に逃げ出してよその部屋にカサコソとひそやかに出沒した事件もありました。就職活動や卒業論文の時期になると泊まりこむ者が増え、夜もまたにぎやかでした。

今年もまた、何かと忙しい中でもみんなが楽しくこのゼミで過ごしています。



わたしの研究室

私のゼミ紹介

経済学部経済学科・松井隆幸ゼミの紹介をします。経済学科には松井ゼミが2つあり、間違えられやすいのですが、松井隆幸先生の方のゼミです。

このゼミでは日本産業論がテーマになっていますが、日本産業と一口に言っても範囲が広すぎるので、産業関係でその時々タイムリーな題材を選び、課題のテキストを指定してディスカッションが進められます。個別産業から政策、地域経済、経済外交まで、数ある経済学部のゼミでも、このゼミほど広く話題を取り上げるゼミも少ないと思います。広い範囲であっても、決して内容が浅くなることはなく、少し凝りすぎでは？実は先生の趣味的分野？と思わせるお話も多い、何となくお得なゼミだと思います。ご自慢の日経テレコムもフル活用です。

ここで松井先生の紹介もせねば、お話は進みません。趣味は料理とお馬ちゃんのございます。お料理の腕前はなかなかのものです。話題も豊富で、それがゼミにも反映し、感じの良い空間が展開される次第であります。ゼミ人数は大体10人、時期によって他の学年との合同もあり、大人数ですが騒がしすぎるでもなく、単調すぎるでもなく、ディスカッションが進行します。

発表用のレジユメを作成するには相応の準備が必要ですが、コメントはその場の雰囲気できっと発言することもあり、話の本筋からかなりずれたコメントになることも多々あります。おかげさまで毎日の時事的な事柄にも興味を持つきっかけができ、何となく強くなったような気がする今日このごろでございます。こんな環境の中で興味のある部分を少しずつ勉強しながら、経済諸活動を探求するきっかけを作ることが、このゼミの特徴だと勝手に解釈し、日々、各メディアに機敏な毎日です。私のゼミ紹介でした。



注：写真は卒業式後の謝恩会のものです。

経済学部経済学科 4年

山崎雅朗

わたしの研究室

物性物理第一講座（通称一研）

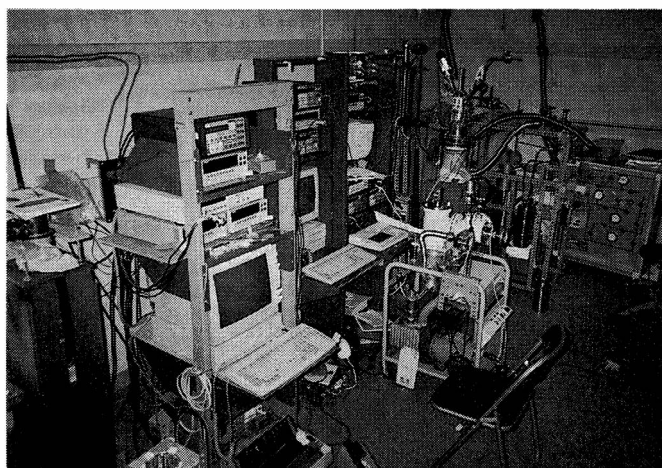
理工学研究科物質科学専攻

赤丸悟士

ひと昔ほど前に「-30度の世界では、バナナで釘が打てます」等というコマーシャルをやっていたのを覚えている人、いるでしょうか。それになれば、ここはバナナどころか茄子やこんにゃくでも釘が打てる研究室です（現実にできるかどうかは怪しいけど）。-30度どころか-273度付近（ほとんどこの世の中の最低温）まで物質を冷却することができます。さらに大学内で一番寒いところであろう「低温液化室」なる施設にひっきりなしにお世話になります。ホントに寒い研究室です。だからといって、我々が物質を冷やして遊んでいるわけではなく、真の目的は様々な物質（と言っても主に磁性金属に的を絞って扱っている）においてマイクロなレベルで起こっていることを、様々な測定によって観測し、解明するところにあるのです。もう少し説明すると、金属を構成する原子の中の電子は、その一つ一つが持つ電氣的、磁氣的な性質が互いに重なり合ったり影響を及ぼし合うことによって、測定する値に多くの異常な振る舞いを示します（例えば超伝導になることによって電気抵抗が0になるなど）。その振る舞いが温度によって邪魔されてしまうことが多いため、物質を冷やすと言うことが必要になるわけです。実際には下の写真の様な複雑(?)な測定装置を使って多種多様な測定を行い、そこから得られたデータを解析することによって物質の中で起こっていることを考えているのです。

以上のような研究を日々、明るく楽しく爽やかにしているのは博士後期課程の2人、とっても賢い博士前期課程の4人、やる気のあふれた4年生が12人、と頭数は揃っています。この人数を優しく指導して下さるのは、櫻井先生、石川先生、近堂先生、水島先生、桑井先生の5人の先生方です。強い個性を持っておられる先生方ばかりで、毎日圧倒されるばかりです。こんな素晴らしい先生方の人望のおかげで他の研究室といろいろと共同研究を行うことがあり、しばしば富山県立大学などに出張する（とばされる）こともあります（下手をすると日本全国、いや全世界のどこにとばされるか分かりません）。研究以外に目を向ければ、先生方とスキーやテニスをしています。当然の事ながら酒も飲みます（飲み過ぎてペンギンになる人もいたりします）。時にはほのぼのとお茶を飲みながらぼーっとしています。ハーブなんかを育てている人もいます。多種多様な活動をしながらも実験だけはきっちりと行っています（そのはずです）、勉強も欠かしません（多分）。

いろいろ書きましたが最後にまとめてしまえば、いつも寒い実験をしているけれどもとても熱く活動している、そんな研究室が一研なのです。



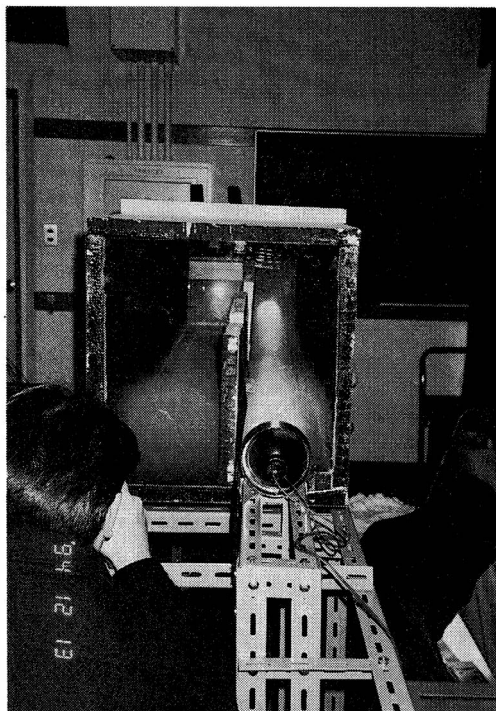
わたしの研究室

マルチモーダル第I講座ってどんなとこ？

工学研究科システム生産工学専攻3年

高松 衛

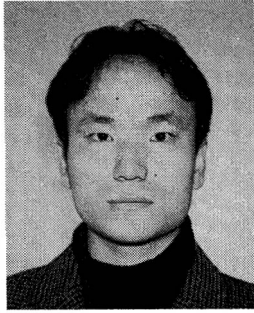
これより皆さんを、マルチモーダル情報工学第I講座（視聴覚情報処理研究室）にご案内致します。当講座は、毎年多くの学生が志望する人気講座の一つです。当講座では主に、視覚・聴覚（人間の目や耳）に関する基礎的並びに応用的研究と論理回路設計に関する研究を行っています。「視覚・聴覚」に関する研究と聞けば、「医学の範囲じゃないの？」とか「工学とどう関係が？」などと思いきや、そんなことはありません。医学、理学、工学、心理学に関係した、正に境界領域の新研究分野であります。外国ではもう既に活発に研究が推し進められています。我が国でも、今後益々盛んに研究が広がっていくことと思います。



さて、当講座で研究しているテーマは、「音情報が視覚情報へ及ぼす影響」、「霧の中で色はどんな風に見えるか？」という研究から、夜間の都市景観を美しく見せるにはどうしたらよいかといった「都市景観工学」など、実に研究内容は多彩かつ興味深いものばかりです。また論理回路設計の研究でも、CGを用いた目で見ると論理回路設計や「五目並べ」プログラムに関する研究等も行っています。

教官、学生の皆さんもこの研究の多彩さに負けず劣らず個性的な方々ばかりです。いつも元気でエネルギッシュな中嶋教官を筆頭に、おっとりマイペースな松田教官、毎日学生より早く朝一番に研究室にこられる宮腰教官。美人事務職員の竹島さん。学生は、この研究室始まって以来の記念すべき(?)最初のDrである著者(D3)と、社会人Drの方が2名(D1)。それぞれ(そこそこに)真面目なM2の院生が5名。彼らは時々、徹夜で謎の研究に打ち込んでいます。学外での活動に忙しいM1が1名(かなり心配)。ルーキーの4年生14名と、あわせると当講座はなかなかの大所帯です。おかげで新4年生の間では、毎年激しい机取り合戦が繰り広げられます。

以上簡単ではありますが、当講座の案内でした。今後共、よりよい研究室作りを目指して頑張りたいと思います。



私の留学生活

経済学部 鄭 聖 都 (韓国)

富山に来てそろそろ2年が経ちます。近くて遠い国であると言われている日本に来てみて、あまり外国にいるような感じはしませんでした。なぜならば食べ物もだいたい同じだし、日本の方々の顔を見ると韓国の人と同じ顔をしているからです。特に富山は私の故郷と似ているのですごく親密感を感じました。

しかしながら、下手な日本語のせいでつらい思いをした最初の頃が今も忘れられません。同じ国の友達がいたので、その人からいろいろ助けてもらったり、彼の友達を紹介してもらったりしているうちに富山での生活にも少しずつ慣れてきました。その時、一番力になってくれたのは同じ立場である留学生達でした。毎日、授業が終わったら留学生相談室に集まって話をしたり、お茶を飲んだりしながらお互いの友情を確かめました。こんな家族的な雰囲気が出来たのは、我々に「ネェさん」と呼ばれている山ノ下さんのお陰だと思います。毎朝、朝早く出勤し、掃除からお茶の用意まで毎日、彼女は留学生相談室を尋ねる人々のために楽しく一日を始められるようにしています。いつも笑顔で迎えてくれるそのやさしさにふれて、ほとんど毎日通うようになりました。心の悩みや部屋の探しなど何でも相談にのってくれるので、みんなに親しまれており、「ネェさん」というニックネームが付けられたそうです。留学生の立場になって心配してくれるので留学生らの心強い味方であるのは間違いないでしょう。

留学生同志で何語で話しますかと言う質問をよくされますが、ここは日本ですから勿論日本語で会話が行われています。たまに同じ国の留学生に会ったら、母国語になりますので、留学生相談室に行くと世界のいろんな国の言葉が聞こえてきます。みなさんも一度来て見たらどうですか。まさに富大の国際タウンを感じられると思います。自分の国を離れて日本と言う国で同じ立場になって頑張っている留学生達、時々皆なで一緒にバーベキューをしたり、旅行に行ったりして、日本での留学生活を楽しんでいます。遊びだけではなく、留学生相談室を通して入ってくる国際交流の集まりや大学の見学旅行やスキー講習会などに参加して日本の文化や風習を習ったり、日本の友達を作ったりしました。

小学校や中学校を訪問し、日本の子供や学生達と遊びながらお互いの国の事を話し合ってもっと日本の事を理解するようになりました。

今年、大学院生になります。ちょっと不安ですが、これからも頑張っていきたいと思います。



日 本 の 春

経済学研究科 大学院1年 賈 素 平 (中国)

日本の友人に金沢市の卯辰山公園の夜桜見物に誘われた。

卯辰山丘陵の道路上に、入口、山頂、出口にかけ、桜の花が満開している。その桜が満開している木と木の間には、小さな色がきれいな花模様のポンボリが入れられ、まるで美しい夢の中の景色だ。

このように感じるのも、太陽の光の下では味わえない。月夜の光と、光の絨毯が敷かれたような市内の夜景と、暗闇の成せる魔力のせいでしょうか。

私の国、中国にもこれとよく似た風情を味わうことが出来る場所がありますが、日本の春というものは、桜が満開するこの時期まだ少し寒さが残っている人々が待っている春の本当の味なのだと思います。

日本語には「命の息吹き」という言葉がある。春に相応しいと思う。

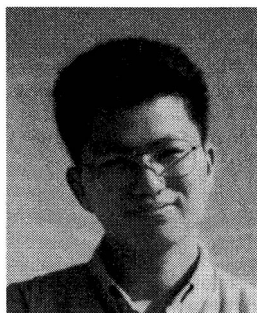
芽も花も葉もない、寒々とした冬の木の枝から、赤い新芽がどうにもこうにも眠くて、あくびをしながら、枝に吹き出し、それにつられて、若葉も背伸びをしつつ出てくると、その赤い新芽達は恥ずかしそうに蕾を少しずつほぐして、五枚の花びらをおもいきり咲いて語りかけてくる。

「春が来たよ」、「新しい命だよ」と語りかけているように感じられる。

この自然の「生」への連綿とした生命力は限りがある筈なのにまで、限りがないような生命力である。

私達は毎年毎年、華やかな花を咲かせる桜の花、それに生命力を感じる。

私達人間が、自然破壊をせずに上手に共存していけば、この自然の生命力は続くでしょう。それに比べて、人間の寿命というものはその自然よりも遥かに短い。儚くも一生のようにも感じられる。だからこそ、この限りある自分の命を人生を、大切に使いたいものだと考える。



韓国に留学して

経済学部 経済学科4年 朴 沢 宏 明

韓国江原大学校からの留学を終えてこの原稿を書いている時点ではや半年が経過してしまっただ。期間は平成10年10月までの1年と2ヶ月、私が一期生であった。今改めて思いなおしてみても瞬く間に過ぎ去ってしまったように感じられる。

きっかけは別にたいしたことではなかった。知人と世間話をしているとき、新聞で富大が何処かの大学と友好協定を結んだけど知っているかと尋ねられ、知らなかった私は翌日、別に何気なく、経済学部の二階にある教務係に聞きにいった。

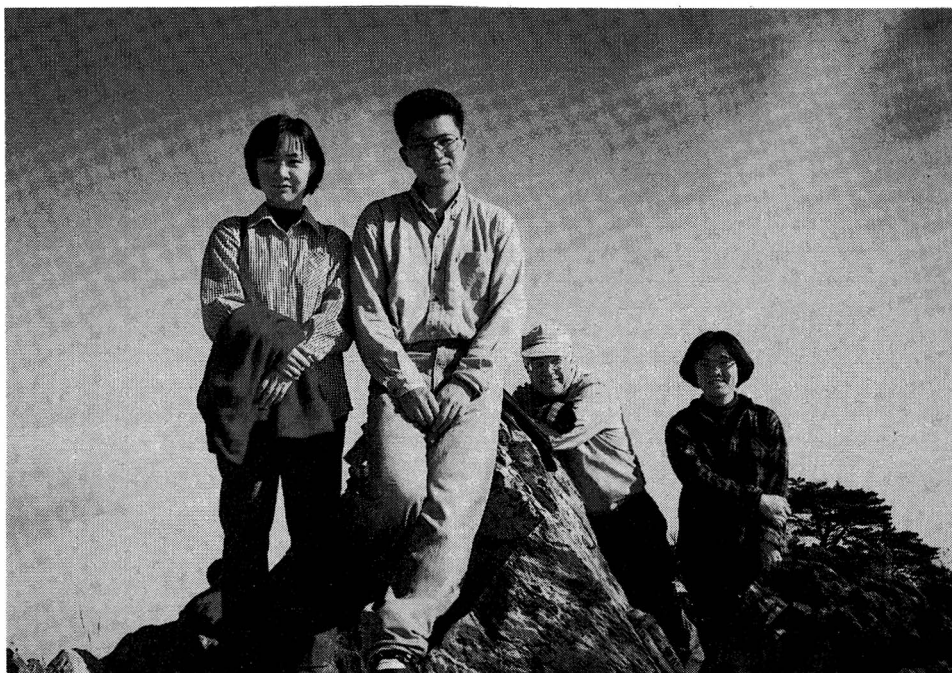
そこで留学生担当係の江幡さんに会った。交流協定を結んだのはとある韓国の大学とのこと、留学するしないに関わらずどちらにしろ君のためになるからと勧められるままにそこからの留学生に会ってみた。崔真珠さんと鄭泰永さんである。

かれらはその年（平成8年）に交換交流協定ができてすぐに富大に来たそうだ。最初、日本人であれば誰でもそうだと思うが留学といえばアメリカやヨーロッパという印象があった。韓国留学と聞いて保守的である祖父や祖母達もあんな後進国に学びに行く必要なし、時間の無駄だと猛反対した。まあ一般的な日本人の反応としてはまだまだ当然の反応だったのかもしれない。しかし、崔真珠さんと鄭泰永さん、韓国から来られた沈教授、韓国に関心を持たれている中嶋信之教授、環日本海経済圏を研究されていた中藤康俊教授等、教務に何気なく聞きにいったことによって様々な人との出会いがあり、韓国に少し関心が出てきた私は「人と同じことをしていても意味がない、せっかくのチャンスだしいっちょやってみるか」と留学をいつのまにか決心していた。

もちろんすべてが順調だったわけではない。ひとつは言葉の問題である。韓国語なんて習ったことはなかったし勉強しようにも英会話のようにすぐにどこでも学べると言うものではまだなかった。結局、挨拶と自己紹介ぐらいしかできない状態で韓国に行くこととなった。あとはすべて現地で体当たりで言葉を覚えた。

また大きな失敗もした。私は富大であるクラブに属していたのだが、そこと韓国にあるクラブとで交流をすることを計画した。しかし日本側で十分なコンセンサスを得られないまま韓国で一人暴走して、結果的に失敗するどころか日本での人間関係すらぶち壊してしまった。このことで私は一時期どん底まで落ち込んだ。しかし逃避せずにふんばって反省を進めた結果、失敗した表面的な問題点だけではなくそこに深く関わっていた自分の人間性に対する大きな欠点をも浮き彫りにさせられた。それを客観的に見つめたとき、余りの自分の醜さに本当に嘔吐しそうになった。苦しかったが何とか立ち直って今の自分がある。彼らには本当にすまないことをしたものだ。

体験のひとつひとつに多くのエピソードがある。突然やってきたIMF危機によって生活ができなくなった人たちと語り合ったこと、終戦ごろ富山にいて空襲を実際に体験されたハラボシが日本語で語ってくれたこと、一人で韓国全国を貧乏旅行したこと、韓国で出会った日本人と帰国後も会いに行ったりしていること等いくらでもある。書ききれないほどの人と出会い、書ききれないほどの体験をした。ひとつのきっかけが縁となり多くの出会いを生み出すこととなり、そのひとつひとつが自分の何処かで血肉となっている。そのような日本では絶対にできないような体験を学生時代にすることは私にとって一生の宝物であり、また奨学金あり単位互換ありで留学を積極的にバックアップしてくれた富大には本当に感謝の気持ちでいっぱいである。



開学50周年

— 夢大学 in TOYAMA '99 — の開催

地域に開かれた大学として、教育研究活動状況や施設などを広く地域社会に開放し、地域の人々、特に地域の子どもたちを受入れ、実験やものづくり教室等を通じて、見て、触れて、不思議の世界を体験し、科学や社会問題等に興味・関心を持ってもらうとともに、地域社会の方々に大学の取り組みへの理解を得る機会として「夢大学 in TOYAMA」を開催します。

小実験や展示は、小学生から一般社会人の方にも理解しやすい内容となるよう工夫されております。

本年は富山大学開学50周年記念の年であり、さらに多彩な事業企画となるよう計画しています。教職員・学生の皆様のご協力とともに、ご家族やお友達をお誘いあわせの上、多数ご参加くださるようお願いいたします。

事業の概要は次のとおりです。

1. 開催日 平成11年9月11日(土)～9月12日(日)
2. 開催会場 富山大学五福キャンパス
3. 事業内容

(1) 実験等展示

タイトル	学部学科等	担当者
富山県のくらしとことば	人文学部 言語文化学科	助教授 中井 精一
—陸上植物の祖先グループ— 緑藻の世界をさぐる	教育学部 理科教育	助教授 渡邊 信
—原子力に依存してられるか— 日本のエネルギー問題を考える	教育学部 社会科教育	助教授 淡川 典子
君も名裁判官!	経済学部 経営法学科	助教授 角森 正雄
ホテルの光を作ってみよう	理学部 化学科	教授 平井 美朗
光はおもしろい	理学部 物理学科	教授 高木光司郎 助教授 松島 房和
夢の高速リンク実現	理学部 地球科学科	教授 対馬 勝年
化石は楽しい —化石発掘講座—	理学部 地球科学科	助手 石崎 泰男
昆虫の体や巣の作りと折紙の科学	理学部 生物学科	教授 鈴木 邦雄
植物は人類を救う	理学部 生物学科	教授 山田 恭司
精子～誕生より受精まで～	理学部 生物圏環境科学科	教授 黒田 英世
海と私たち	理学部 生物圏環境科学科	講師 張 勁
面白プラズマ現象	工学部 電気電子システム工学科	教授 升方 勝己 助教授 高橋 隆一 技官 北村 岩雄
どうしてそう見えるの? —不思議な錯視—	工学部 電気電子システム工学科	助手 塚田 章
モータの出力 どのようにして測るの!?	工学部 電気電子システム工学科	教授 作井 正昭 助手 鮎井 賢治 技官 高安 勇吉
有機ELパネル	工学部 電気電子システム工学科	教授 女川 博義 助教授 岡田 裕之 助手 中 茂樹 技官 柴田 幹
3Dカメラで顔を測ってみよう	工学部 知能情報工学科	教授 米田 政明 助教授 長谷 博行 助手 酒井 充 技官 丸山 博
楽しい情報の世界	工学部 知能情報工学科	教授 河崎善司郎 助教授 田島 正登 助手 龍田 啓司
熱と温度を見てみよう 測ってみよう	工学部 機械知能システム工学科	助教授 平澤 良男 助手 小坂 暁夫
意志決定(階層分析法)	工学部 機械知能システム工学科	助教授 田代 発造
ナノ世界の機械工学	工学部 機械知能システム工学科	教授 岩城 敏博 講師 佐竹 信一
先進技術のナマズです。	工学部 機械知能システム工学科	教授 小泉 邦雄 助教授 佐々木 基文 助手 笹木 亮

ピカ・ピカ・ピカソ!	工学部 物質生命システム工学科	教授 池野 進
結晶析出成長とその形	工学部 物質生命システム工学科	助教授 蓮覚寺聖一
キシリトール発見!?	工学部 物質生命システム工学科	講師 小野 慎
酸化チタン光触媒の拓く新しい世界と最近の展開	工学部 物質生命システム工学科	教授 熊沢 英博
バイオサイエンス・バイオテクノロジー1・2・3	工学部 物質生命システム工学科	教授 島山 豊正 助手 須加 実
本当は何色? 色の分離をしてみよう	工学部 物質生命システム工学科	教授 黒田 重靖 助教授 小田 晃規 助手 宮武 滝太 技官 井澤 真由美
コンピュータでモノ作り?	工学部 実習工場	技官 高村 浩之
“「イーもの」を作ってみませんか”	工学部 実習工場	技官 二宮 英治
—富山大学開学50周年記念写真展— 目で見る富山大学の50年	附属図書館 情報管理課	課長 星野 茂登一
ラフカディオ・ハーンの怪談とそのルーツを訪ねて	附属図書館	専門員 滋野 康雄
思い思いの花を咲かせませんか	生涯学習教育研究センター	教授 大石 昂 講師 室 進一
コンピュータ50年の歴史 —ABCマシンからスーパー・コンピュータまで—	総合情報処理センター	助教授 高井 正三 技官 川原 智徳
富山大学における実験廃液の処理 —廃液処理施設はがんばっています—	廃液処理施設 工学部 物質生命システム工学科	教授 長谷川 淳 助手 加賀谷 重浩
低温の世界	低温液化室 工学部 物質生命システム工学科 理学部 物理学科 教育学部 理科教育	教授 森 克徳 助教授 西村 克彦 教授 石川 義和 助手 水島 俊雄 助教授 市瀬 和義
くらしと放射線利用100年の歴史	放射性同位元素総合実験室 理学部 生物学科 理学部 化学科	教授 菅井 道三 教授 安田 祐介 技官 高塚 清文
'99 特別企画 富山大学教育学部 附属中学校 合唱部 富山大学人形劇団ピノキオの影絵の講演と人形劇指導 富山大学吹奏楽部 特別演奏		

(2) 体験入学

講座番号	講座名	募集定員(人)	学部名	指導主任教官名
講座開設日：9月11日(土)〈1日コース〉				
1	iMacで遊ぼう—死んでいる楽譜に命を吹き込む—	8	教育学部	教授 穴山 彊
2	南極の科学	20	教育学部	教授 宇井 啓高
3	バブル景気と平成不況について学ぼう	10	経済学部	教授 星野 富一
4	LINUXとオープンソースを体験する	10	経済学部	教授 大坂 洋
5	Webサーバのインストールから運用まで	10	経済学部	教授 古田 俊吉
6	〈銀行〉の仕組みと〈不良債権〉問題	10	経済学部	教授 芳賀 健一
7	君も名裁判官	40	経済学部	助教授 角森 正雄
8	低温の興味、生成の応用	10	理学部	教授 櫻井 醇児
9	進め!電波少年 in TOYAMA	12	理学部	教授 常川 省三
10	キュリー夫妻によるラジウム発見の追体験	15	理学部	教授 安田 祐介
11	地球の大気と海洋の流れをみてみよう	5	理学部	助教授 川村 隆一
12	森の植物たちの役割	15	理学部	教授 西村 格
13	コンピュータ応用の数値計算問題の解決について学んでみよう	10	工学部	教授 西塚 典生
14	見えない光をとらえる	5	工学部	教授 中谷 訓幸
15	コンピュータの世界を探検して見よう	15	工学部	教授 山淵 龍夫
16	関数をいろいろの角度から観察しよう	10	工学部	教授 葛 晋治
17	結晶の成長の不思議…アルミと氷の組織を比較する…	10	工学部	教授 佐治 重興
18	ニッケル・水素電池の試作	10	水素同位体科学 研究センター	教授 渡辺 国昭
19	ネットワークでロボットを動かす	20	総合情報処理センター	センター長 山西 潤一
20	君は円周率をどこまで正確に計算できるか?	30	総合情報処理センター	助教授 高井 正三
講座開設日：9月11日(土)・9月12日(日)〈2日コース〉				
21	切り絵で楽しむマジック影絵	20	教育学部	教授 山瀬 晋吾
22	ゼミナール経営史入門	10	経済学部	助教授 長谷部 宏一
23	顕微鏡で見る生物と細胞の世界	10	理学部	助教授 岩坪 美兼
24	タイタニック号沈没の謎にせまる	10	工学部	教授 塩澤 和章
25	ヨーグルトに住んでいる菌ってなに?	4	工学部	教授 小平 憲一
26	材料。そこが見たい! —電子線で見たいものを見る—	5	工学部	教授 池野 進

富山大学大学開放事業(夢大学 in TOYAMA) 実施調整委員会

照会先 庶務課(6005)又は地域共同研究センター(6936)

第66回全日本学生卓球選手権大会の富山開催決定

富山大学卓球部部长 吉川和男

本年4月下旬、全日本学生卓球連盟の会議で「第66回全日本学生卓球選手権大会」の富山開催が正式に決定した。大学生の全日本卓球選手権大会は“インカレ”と“全日学”の愛称で呼ばれている2つの大会が毎年行われている。インカレは団体戦で、全日学は個人戦（シングルス・ダブルス）である。第66回全日学は全国各大学から選ばれた最強のプレイヤーが一同に会し、平成11年度の大学生の個人最高選手決定大会であり、富山大学卓球部、富山医科薬科大学卓球部、富山国際大学卓球部の諸君が中止になり運営される大会である。富山の開催はもちろん、北信越学連としても初めての全日学である。学生の手による学生の大会に選手として、あるいは大会役員として参加することは大学生活の大きな思い出であり、自身の可能性の発見のためにも有意義な機会だと考えられる。本学学生諸君には選手への応援、激励などを通して大会を盛り上げていただきたい。

右記に要項を記す。

記

第66回全日本学生卓球選手権大会

- ・大会期日 平成11年10月1日（金）～3日（日）
- ・大会会場 富山市総合体育館（富山駅北口）
- ・日 程 1日（金）
開会式（AM9：30）
男女ダブルス（1回戦～4回戦）
男女シングルス（1回戦）
- 2日（土）
男女ダブルス（準々決勝～決勝戦）
男子シングルス（2回戦～3回戦）
女子シングルス（2回戦～4回戦）
- 3日（日）
男子シングルス（4回戦～決勝戦）
女子シングルス（5回戦～決勝戦）

※ボランティア募集

本大会をお手伝いいただける方を募集
（連絡先45-6808、内線6808

卓球部副部长 田代）

学生部たより

第51回北陸地区国立大学体育大会の開催

去る5月8日、本学において第51回北陸地区国立大学体育連盟運営協議会が開催され、本学の当番で大会が実施されることになり、その種目等が次のとおり決定されましたのでお知らせします。

皆さんの応援をお願いします。

種目	期日	開始時間	競技会場	出場選手数	競技種目及び小種目
陸上競技 男・女	7月11日(日)	10:00	富山県五福公園 陸上競技場	(1)1種目2名以内 (リレーを除く) ただし、1名のオープン参加を認める (2)1人の出場種目は3種目以内とする (リレーを除く)	男子(トラック) 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m, 5000m, 110mH, 400mH, 3000mSC, 400mR, 1600mR (フィールド)走幅跳, 三段跳, 走高跳, 棒高跳, 円盤投, 砲丸投 槍投, ハンマー投 女子(トラック) 100m, 200m, 400m, 800m, 100mH, 400mH, 400mR (フィールド)走幅跳, 走高跳, 棒高跳, 円盤投, 砲丸投, 槍投 ハンマー投
水泳	7月3日(土)	9:00	富山県総合体育センター (プール)	(1)1種目3名以内 (2)1人の出場種目は3種目以内 (リレーを除く)	(男子)自由形 50m, 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m, 5000m, 10000m, 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m, 5000m, 10000m 背泳 100m, 200m 平泳 100m, 200m バタフライ 100m, 200m メドレーリレー 400m リレー 200m, 800m 個人メドレー 200m, 400m (女子)自由形 50m, 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m, 5000m, 10000m 背泳 100m, 200m 平泳 100m, 200m バタフライ 50m, 100m メドレーリレー 400m リレー 200m, 400m 個人メドレー 200m
野球 男	7月10日(土) 7月11日(日)	11:00 10:00	富山県五福公園 県営富山野球場	30名以内	リーグ戦
準硬式野球	7月10日(土) 7月11日(日) (雨天の場合2日まで繰返)	11:00 9:00	富山市民球場	25名以内	トーナメント戦, 3位決定戦
庭球 男・女	7月10日(土) 7月11日(日) (雨天の場合2日まで繰返)	9:00 9:00	岩瀬スポーツ公園 テニスコート	男子 15名以内 女子 7名以内	団体(トーナメント戦) 男子4複7単 団体(トーナメント戦) 女子2複3単
ソフトテニス	7月10日(土) 7月11日(日) (雨天の場合1日に延期)	8:00	高岡スポーツコア テニスコート	男子 30名以内 女子 20名以内	団体(点取りリーグ戦) 男子5組9ゲーム, 女子3組9ゲーム 個人(トーナメント戦) 男子15組以内9ゲーム, 女子10組以内9ゲーム
バスケットボール	7月4日(日)	9:00	富山県総合体育センター	男女共20名以内	トーナメント戦
バレーボール	7月11日(日)	8:00	富山市体育文化センター	男女共12名以内	トーナメント戦, 3セット
サッカー 男	7月4日(日) 7月11日(日)	13:00 10:00	富山大学第1 グラウンド	20名以内	トーナメント戦(35-5-35)
ラグビー・フットボール	6月13日(日) 6月20日(日) 6月27日(日)	12:00 12:00 12:00	富山県立総合体育センター 富山大学第2グラウンド	25名以内	トーナメント戦 (30-5-30) 3位決定戦
卓球 男・女	7月10日(土)	9:00	富山市体育文化センター	男子 40名以内 女子 12名以内	団体(リーグ戦) 男子4複7単 女子2複5単 個人(トーナメント戦・シングルスのみ) 男子40名以内, 女子12名以内
バドミントン	7月3日(土) 7月10日(日) 7月11日(日)	9:00 9:00 9:00	小杉町総合体育センター	男子 24名以内 女子 20名以内	団体(トーナメント戦) 男子3複4単, 女子2複3単 個人(トーナメント戦) シングルス 男子12名以内, 女子10名以内 ダブルス 男子6組以内, 女子5組以内
柔道	7月11日(日)	9:00	県営富山武道館	12名以内	団体(リーグ戦)1チーム7名 個人(トーナメント戦) 男子4名以内, 女子 無制限
剣道	7月3日(土)	9:00	富山大学 第1体育館	男子 28名以内 女子 12名以内	団体(予選リーグ戦・決勝トーナメント戦)1チーム7名(登録9名以内) 1校2チーム以内, 女子(リーグ戦)5名(登録7名以内) 個人(トーナメント戦) 男子10名以内, 女子5名以内
体操	7月11日(日)	10:00	富山市体育文化センター トレーニングセンター	男子 20名以内 女子 10名以内	男子 床運動, 鞍馬, 平行棒, 吊輪, 跳馬, 鉄棒 女子 床運動, 段違平行棒, 平均台, 跳馬 新体操(エキジビション)
ハンドボール	7月11日(日)	10:00	富山市体育館	男子 15名以内	男子 トーナメント戦 3位決定戦(25-10-25) 女子は金沢大学と富山大学のエキジビション
ヨット	7月3日(土) 7月4日(日)	9:00 9:00	新湊市 公共マリーナ	20名以内	総合と種目別(スナイプ級, 470級) スナイプ級2艇制, 470級2艇制
空手道	7月11日(日)	10:00	富山大学 第1体育館	20名以内	男子 団体 自由組手(5組)リーグ戦 各試合2分3本勝負 女子個人自由組手 個人 自由組手トーナメント戦 トーナメント戦 各校4名以内2分3本勝負(引き分けの時 2分延長後判定)
弓道	7月10日(土) 7月11日(日)	9:00 9:00	県営富山弓道場	男女合わせて 20名以内	団体 男子8名(1名20射 計160射), 女子4名(1名20射 計80射) 個人 団体戦出場者及び男女4名(20射中的中数の多い者)
自動車	7月11日(日)	9:00	北日本自動車学校	団体各種目出場 2名 個人各種目出場 2名以内	フィギアレース(1)軽四輪(660cc以下) (2)小型トラック(4ナンバーキャブオーバータイプ) (3)小型乗用車 (4)普通乗用車
アメリカンフットボール 男	6月13日(日) 6月27日(日) 7月11日(日)	14:00 14:00 14:00	富山大学第2 グラウンド ほか		リーグ戦(10-10)-10-(10-10)
合気道 男・女	7月10日(土)	14:00	富山大学武道場		公開演武(組演武)

証明書自動発行機稼働開始

J R学割証，在学証明書及び卒業（修了）見込証明書が「証明書自動発行機」により交付を受けることができるようになりました。今までは各学部の窓口へ交付願を提出し，証明書を受け取るまで日数がかかっていましたが，今回設置された証明書自動発行機ではその場での自動発行されるのでたいへん便利になったことと思います。

なお，その他の証明書は，自動発行機では受け取れませんので，今までどおり各学部窓口で申し込んで下さい。

証明書自動発行機のあらまし

★設置場所：附属図書館1階ラセン階段横，工学部学務係横ホール

★発行対象学生：学部生及び大学院生（研究生，科目等履修生及び聴講生は除きます。）

★稼働日：附属図書館…月曜日～金曜日 8時30分～20時00分

ただし，夏季休業，冬季休業及び春季休業の各休業期間中は，

月曜日～金曜日 8時30分～16時30分

工学部…月曜日～金曜日 8時30分～18時30分

★休止日：附属図書館…土曜日，日曜日，国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に定める休日，本学創立記念日（5月31日），

12月28日～1月4日，館長が特に必要と認めた日

工学部…土曜日，日曜日，国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に定める休日，12月28日～1月4日

※ 休止日は，臨時に定めることがあります。

★発行枚数：一回の操作で発行できる証明書の枚数は，5枚までです。それ以上の枚数が必要な場合には，もう一度，同じ操作を行ってください。

また，J R学割証の場合，一度に出せる枚数は2枚までです。2枚以上の場合は，再度行ってください。なお，年間の発行枚数は一人10枚までです。

★発行されるまでの操作手順：音声ガイドに従い画面に触れながら操作してください。

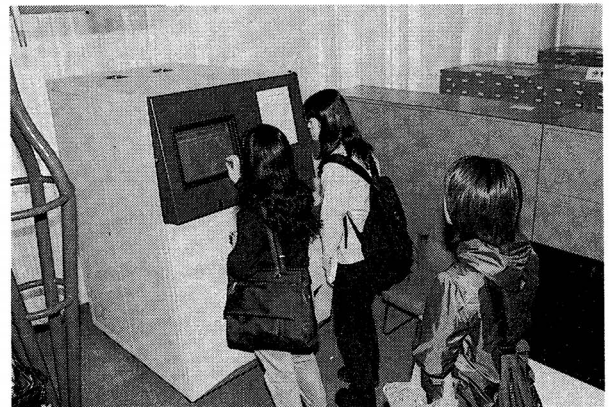
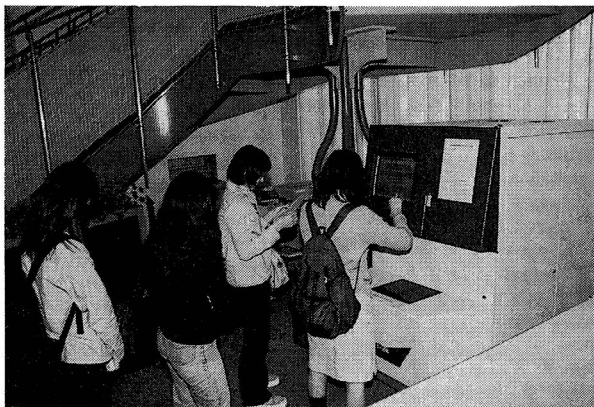


図 書 館 コ ー ナ ー

新生必読！ 図書館利用案内

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

これから少しずつ大学生活に慣れてくる時期だと思いますが、ところで、皆さんはもう図書館を利用しましたか？

本学附属図書館は、本館（メインストリートの突き当たり）と工学専門図書室（工学部キャンパスの管理棟1階）の2ヶ所に分かれて、約89万冊の図書、約16,000タイトルの雑誌等を所蔵しており、様々のサービスを通じて皆さんの学習活動を支援していますが、まだその利用法がよくわからないという人もいるでしょう。そこで、本欄をお借りして、図書館の利用法をわかりやすく説明したいと思います。

1. 開館時間

平日（学期中）

本館 8:30～20:30

工学専門図書室 8:30～20:00

（ただし、夏休み、冬休み及び春休みの期間中は、ともに8:30～17:00です。）

土・日曜日（学期中のみ開館します）

本館 12:30～16:30

工学専門図書室 12:30～16:30

2. 休館日

- ・ 休業中の土・日曜日
- ・ 国民の祝日
- ・ 本学創立記念日（5月31日）
- ・ 年末年始（12月28日～1月4日）
- ・ その他、館長が特に必要と認めた日

カウンターに年間の開館・休館予定表が置いてありますので、自由にお取りください。



本館1Fカウンター

3. 図書の貸出と返却

図書館資料は、館内で自由に閲覧することができますが、館外貸出を希望する場合は、図書と学生証を貸出カウンターに提出してください。貸出冊数及び貸出期間は、次のとおりです。

- ・学部学生 5冊以内 2週間以内
- ・大学院学生 10冊以内 1ヶ月以内
- ・研究生，聴講生等は，学部学生と同じ

(ただし，雑誌，参考図書，視聴覚資料は貸出できません。)

なお，貸出手続きを受けずに図書を持ち出そうとすると，ブザーが鳴り，出口バーがロックされますので，注意してください。

貸出を受けた図書は，返却カウンターに返してください。閉館時は，玄関左側の返却ポストに入れてください。また，返却期限に遅れると貸出停止になりますので，遅れないでください。

貸出期限内であれば，1回更新できます(ただし，長期貸出や予約者がいる場合は不可)。

4. 資料の探し方

図書館資料の探し方には，①コンピュータを利用する方法(OPAC:オーパックと読みます)と，②カード式目録を調べる方法の2種類があります。

①のOPACで検索できる範囲は，昭和60年度(1985)以降に受け入れた図書，それ以前の受入本でもさかのぼってコンピュータに登録(遡及入力)した図書，更に，雑誌の全タイトルです。OPACの使い方マニュアルは，コンピュータ横に備え付けてあります。

昭和59年度(1984)以前の受入本については，コンピュータ未入力のものが多いので，上記②のカード式目録を調べてください。著者名・書名・件名等のカードがABC順(和図書はヘボン式ローマ字)に配列してあります。

5. 資料の配列

コンピュータあるいはカードを使って求める図書の情報が見つかったら，請求記号を確認してください。請求記号は数字・英字の組合せで，図書の背にラベルが貼ってあり，本を探す大切な手掛りになります。下表のように，館内の配置場所ごとに請求記号順に並んでいます。

所在表示	配置場所	資料区分
開架1	本館 1階	学生用図書，辞典等
開架2	本館南2階	雑誌(理工系)
開架2	本館南3階	雑誌(人文・社会系)
開架2	本館南4～6階	研究用図書等
工学図	工学専門図書室	工学系の図書・雑誌

雑誌は，雑誌名順に配列されています。外国雑誌はABC順，国内雑誌は五十音順です。

ちなみに，図書館資料は書棚に向かって左から右へ，上の棚から下の棚へと並んでいます。1列の端まできたら裏側に続きます。

6. 参考調査・文献複写

本学にない資料でも他大学等からコピーや現物を取り寄せることができます(実費有料)。

また、館内にプリペイドカードが使える複写機を設置していますが、図書館資料を複写する場合は、著作権法に基づく所定の手続きが必要です。備付けの文献複写申込書に記入の上、カウンターに申し込んでください。

その他、図書館の利用方法や資料のことでわからないことがあれば、カウンターでお気軽にご相談ください。

7. その他のサービス

①インターネット，CD-ROM

本館1階のマルチメディア・コーナーでインターネットやCD-ROMの検索ができます。

②ビデオ

語学学習等のビデオが用意してあります。貸出カウンターで申し込めば、本館2階自由閲覧室内のビデオ・ブースで利用できます。

③紹介状

他大学の図書館を訪問して利用するときは、紹介状を発行します。

④購入希望図書

教育・研究に不可欠な資料だけれど、本学には所蔵していないものについて、専用の申込書に必要事項を書いて、リクエストすることができます。



本館1Fマルチメディアコーナー



工学専門図書館閲覧コーナー

キャンパスウォッチング

昭和60年1月に工学部の研究棟・教室棟の2期工事が終了し、同年9月30日、永年の懸案であった工学部の五福移転統合がすべて終了致しました。

工学部の旧講堂（愛称：鹿鳴館）は建築的な価値はそれなりに高く、工学部の移転にあたり、高岡市ではその保存計画が検討されました。しかし、諸般の事情によりその計画は実現に至らず、取り壊される事になりました。

工学部同窓会では移転記念事業の一環として、旧講堂の天井中央のシャンデリア1個を取り外し、新校舎の一隅に昔日の面影を偲ぶよすがとして記念保存する事になりました。

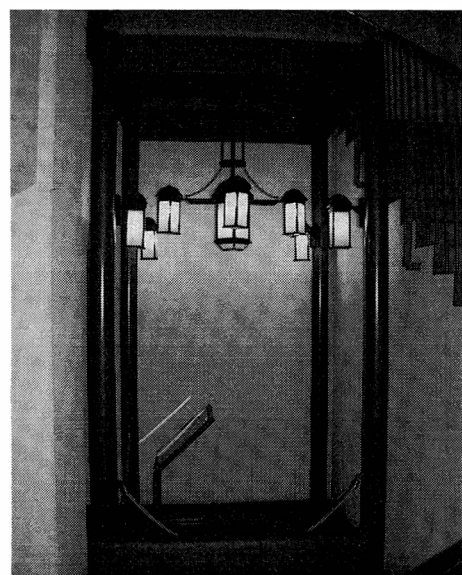
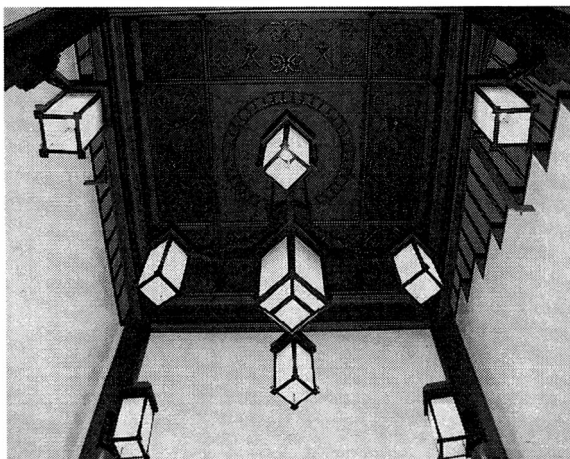
移転後の学生諸君はあまり興味がないようであるが、リクルートなどで来訪される往時を知る同窓会OB諸氏には話題を提供しております。

シャンデリアに併置された記念プレートには、以下のような辞句が刻まれている。

◀これは富山大学工学部旧講堂に装置されていたシャンデリアの一つである。この講堂は昭和2年に完成したもので、フランス様式に建造され、内部二階には三方に回廊を備えた極めて優美な建物であって、建築界では高く評価されてきた。正門より築山をおいて建ったこの壮麗な講堂は、学園のシンボルとして広く親しまれた。

以来、様々な行事が催され、若人が青春を謳歌した思い出多き場であり、また地域文化の高揚にも大きく貢献した。

工学部移転を機に往時の面影を偲ぶべく、ここにその移設を行った。 昭和61年7月➤



◆◆◆◆◆ 学園ニュース編集委員 ◆◆◆◆◆

学生部長 能登谷 久 公
人文学部 高 安 和 子
〃 中 村 靖 子
教育学部 呉 羽 長
〃 樋 野 幸 男

経済学部 小 島 満
〃 丹 羽 功
理学部 石 川 義 和
〃 川 田 邦 夫
工学部 佐 貫 須美子 (コーディネータ)
〃 山 崎 登志成 (コーディネータ)

